

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3272100284		
法人名	有限会社 はるひ福祉サービス		
事業所名	はるひ苑 津和野		
所在地	島根県鹿足郡津和野町寺田67番2 (電話) 0856-72-1588		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟町43番地		
訪問調査日	平成21年9月3日	評価確定日	平成21年10月9日

【情報提供票より】(平成21年8月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤7人, 非常勤4人, 常勤換算5.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り
	1階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(平成21年8月11日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	1名	要介護2	4名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 85.2 歳	最低 75 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津和野共存病院、和崎医院、オクダ歯科、こうの眼科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設4年目を迎えたホームで、近くに公民館や幼稚園がありお花見会や運動会、文化祭、バザーなど一緒に参加している。月一回発行する「はるひ苑便り」は介護計画と一緒に送られ、家族に利用者の暮らしぶりや、ホットニュース、健康状態などをきめ細やかに報告している。職員は利用者と共に笑顔で一日が過せるような支援を心がけている。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「職員を育てる取り組み」「同業者との交流」「重度化や終末期に向けた方針の共有」については改善に取り組まれていた。「評価の活用」「災害対策の備蓄」はさらに継続して検討が望まれる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で日頃のケアを振り返りながら自己評価票を記入し、話し合い管理者がまとめた。改善課題についての具体的な取り組みはこれからである。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	二ヶ月に一回開催している。ホームでの行事や暮らしぶりの報告や、外部評価、防災訓練、研修、ターミナルケア、インフルエンザなどについて意見交換をしている。職員研修の充実の要望が出され改善に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との面会時、家族会、運営推進会議、苑便りと共に送る返信用通信など、相談や意見、苦情を聞く機会や場面を多くし、運営やサービスに活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会にも加入し、文化祭の展示コーナーに出品したり、花見や草取り、運動会やバザーなどに参加している。また児童館からお茶摘みに誘っていただいたり、来ていただいたりして地域と交流が広がってきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中でその人らしく生活し続けることを支えるホーム独自の理念を掲げ支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は日々理念を確認して共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、花見、草取り、運動会、文化祭の展示コーナーに作品を展示したり、児童館からお茶摘みに誘っていただいたりして積極的に地域の人たちと交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員がそれぞれに自己評価票を記入し管理者が中心となってまとめた。日頃のケアの振り返りとなり、改善課題を確認できた。	○	職員全員で改善課題を共有し計画的に改善に取り組まれることに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、ホームでの利用者の様子や取り組みの報告や、インフルエンザ、ターミナルケアなど意見交換をしサービス改善に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームだよりを持参したり、電話で相談するなど日常的に連携しながら共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回、はるひ苑便りと一緒に介護計画と金銭報告を送付している。また家族の面会時や家族会、遠方の方には電話でホームでの様子など報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会、運営推進会議、苑便りと共に送る返信用通信などいろいろ機会を作り意見や要望を聞き出し運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時は申し送りや引継ぎをし、利用者への影響を最小限に抑えるよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	重点課題として取り組んだ、スキルアップセミナーを導入し目標設定、資格取得、など意識改革に取り組み、職員の段階に応じた研修、内部、外部研修など参加できるよう努めている。	○	さらなる取り組みに期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は、益田圏域のグループホーム連絡会に参加している。勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービスの向上に活かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や、おためし入居など家族と相談しながら、利用者が馴染め安心して生活できるよう一人ひとりに合った方法で対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜や料理、お菓子の作り方を教えてもらったり、落ちこんでいる時に声を掛けてもらったり、また「ありがとう」の感謝の一言で元気を貰ったりお互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に生活する中で本人の希望や思いを聞くようにしている。困難な場合は、時間をかけて寄り添って、思いや意向の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が利用者や家族の思いや意向を聞き、中心となってモニタリングし、ケア会議で話し合い介護計画担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月二回のモニタリング、ケア会議で話し合い、現状に合った介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特別な日の外出外泊や、受診、通院時の同行など、状況や要望に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診支援をしている。また月二回ホームドクターによる往診があり、利用者は往診日を心待ちしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針を作成している。家族、職員、かかりつけ医みんなで話し合いを続けている。	○	引き続き話し合いや勉強会を重ね共有化を進めていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時や研修の中で徹底している。職員は生活の中で言動に注意をし、利用者の尊厳を大切に声掛けや対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしを体調や気分、希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、野菜の下ごしらえ、茶碗拭き、テーブル拭きなど利用者の力を引き出し一緒に準備や片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には二日に一回であるが、利用者の希望があれば毎日でも入浴を楽しめる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水遣り・掃除・生花・畑仕事など一人ひとりの力を活かした役割作りをしている。スイカ割り、案山子祭り、柏餅作りなど楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にはホームの周りの散歩や庭での草とりやひなたぼっこ、買い物、中庭でのお茶会など、天候のいい時は戸外で過ごす時間が持てるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。外出しそうな様子を察知したらさりげなく声をかけたり、一緒について行くなど、自由な暮らしを支えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の避難訓練は夜間を想定して、自地会長や近所の協力を得て行った。避難場所と緊急時の通報を公民館にお願いしている。	○	備蓄についても出来ることから手がけていただきたい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事を把握している。利用者の状態に応じた摂取量や、刻み食、水分補給などできるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には椅子とテーブルが置かれ、お茶会や日向ぼっこなど居心地よく過せる空間作りがしてある。ゴーヤのカーテンの優しい光の中で、利用者は、思い思いの場所で過していた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の持ち物、馴染みのタンス、家族や利用者の写真等、好みに合わせて飾られたり配置されている。ベットでも畳みでも選択できる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。

